

## 在沖米国総領事の暴言撤回と謝罪・辞任を求める抗議決議

去る9月4日、アルフレッド・R・マグルビー在沖米国総領事は就任後初の記者会見において普天間飛行場をめぐり、「普天間が特に危険だとは思わない。世界一危険という表現がどこから出たのかわからないが一人歩きしている。その認識は全くしていない。基地周辺にどうして住宅が密集したのか不思議だ」と発言した。また、オスプレイの安全性についても、「オスプレイは安全といえる。オスプレイの経験の長いパイロットも慣れれば乗りやすい」と強調した。

以上の総領事の発言は、戦後67年此の方、基地の重圧と危険に身をさらされている沖縄県民に波紋を広げ、県民の怒りは頂点に達している。

復帰の際、沖縄の米軍基地は本土並み縮小をうたいながら、以前にも増して基地の機能は強化されてきた。ここ最近では嘉手納基地においても外来機F22A ラプターによる連日昼夜の別なく猛烈な騒音を撒き散らし、もはや人間として生きる基本的環境が根底から破壊されている。

町域の83パーセントも米軍基地に接収され、国益のため、さまざま犠牲を強いられてきた本町にとって、この度の総領事の発言は断じて容認できるものではない。

よって、嘉手納町議会は同総領事の発言が県民の願いと民意を全く無視し、犠牲を強いるものであることから断固抗議するとともに、同総領事の暴言の撤回と沖縄県民への謝罪、そして辞任を強く要求する。

以上、決議する。

平成24年9月27日  
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

米国務長官 駐日米国大使 在沖米国総領事

沖縄県議会議長